

原油調整金、5割下げ サウジ産6月積み アジア向け、供給懸念が一服

サウジアラビア国営石油会社のサウジアラムコは、アジア向けに長期契約で原油を販売する際に指標価格に上乘せする調整金を引き下げる。代表油種の6月積みは、2000年以降の最高値だった5月積みに比べ5割安い。

ロシアのウクライナ侵攻による供給懸念の一服感や、中国の新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要減退などが反映されたとみられる。

主要油種の調整金をそろって下げるのは4カ月ぶり。代表油種「アラビアンライト」の調整金は1バレル4.40ドルの割り増しと、5月積みに比べて4.95ドル下がった。

ロシアの軍事侵攻と西側の経済制裁で一時強まった原油の需給逼迫観測は、足元でやや和らいできた。需給のタイト感を示し、調整金の算出に影響するとされるドバイ原油の現物と先物の価格差は4月以降、縮小した。調整金もこれを映す形で前月比で圧縮された。

欧州北西部や地中海向けの調整金も前月比で下がる中、アジア向けの下げ幅は相対的に大きかった。アジアはロシア産原油を巡る供給懸念の影響度合いが小さい。アジア最大の消費国である中国の需要が、都市封鎖（ロックダウン）で減速したことも背景にある。

一方で、ロシア産原油の代替調達先の一つとして中東産の需要が高まっている。「今月の調整金は下がったものの、推計値よりも0.5ドル程度高い」（マーケット・リスク・アドバイザーの新村直弘共同代表）との指摘がある。

2022年6月積みの サウジ産原油の調整金	
〔1バレルあたりドル、+は割増 金、-は割引金、カッコ 内は前月比増減額〕	
スーパーライト	+5.75(-5.10)
エキストラライト	+4.65(-4.95)
ライト	+4.40(-4.95)
ミディアム	+4.35(-4.95)
ヘビー	+3.00(-4.95)

フェノール価格5.9%高 5月、国内大口

合成樹脂などの原料となる基礎化学品フェノールの国内大口価格が5カ月連続で上昇した。[三井化学](#)などが決める5月分の国内価格は1キロ374.9円と、4月分と比べ20.8円（5.9%）高い。原料のベンゼンの値上がりを反映した。

油脂各社 原料高騰で苦境に 値上げしても追いつかず

油脂各社、原料高騰で苦境に 値上げしても追いつかず

油脂各社の収益が一段と悪化している。原料高が続いているため。今第3半期決算も加工油脂、製油の大幅減益は変わっていない。歴史的な原料相場高を受け、この1年で製油各社は4度、加工油脂は2度の価格改定を実施。しかしながら、原料相場以外の原油高に伴う製造費や物流費の上昇も加わったコストアップ分をすべてカバーするには至らず、かつてない厳しい収益環境が継続している。ロシアのウクライナ侵攻によって、穀物、油脂相場は一段高の動き。原料高は長期化の様相を見せ始めており、今第4四半期、さらには新年度の4月以降の収益環境も改善の見通しが立たない。加工油脂の第3四半期決算は、ADEKAの食品事業は売上高553億円で前年同期比8・1%増、営業利益3億円で同58・2%減となった。大幅減益となったのは、原料油脂相場の高騰に尽きる。2度の価格改定を実施するも、同社の城詰秀尊社長は決算説明会で「値上げについては、原料が上昇している分はまったくヘッジできていないというのが現状である」との認識。パーム油相

場はマレーシアの先物が中心限月で6000リンギ超えと過去最高値を記録し、動物油脂もこの半年でキロ70円の大幅高に。オミクロン株の感染拡大で外食をはじめとする需要が低迷する中、この1～3月は一層厳しい状況。同社では食品事業の通期見通しを赤字と予想している。

製油各社の第3四半期も大幅減益を余儀なくされている。トップの日清オイリオグループの営業利益は同26・0%減、うち、油脂・油糧の営業利益は同57・7%の大幅減。J-オイルミルズの営業利益は同96・3%減、昭和産業の油脂食品事業も同76・9%の大幅減益となった。4度に渡り、計130～140円の大幅値上げを実施したものの、菜種をはじめとする大幅なコストアップを打ち返すまでには至っていないというのが現状。加工油脂は2月から3度目の価格改定、製油各社は3～4月に5度目の値上げに入る。パーム油は過去最高値、落ち着いていたシカゴ大豆も16ドル超えに急騰している。今回の値上げで終わりそうもないことが、油脂業界の苦境を物語っている。

マレーシア パーム油 先物一時 7,000リングイ超えに高騰

マレーシア・パーム油 先物一時、7000リングイ超えに高騰

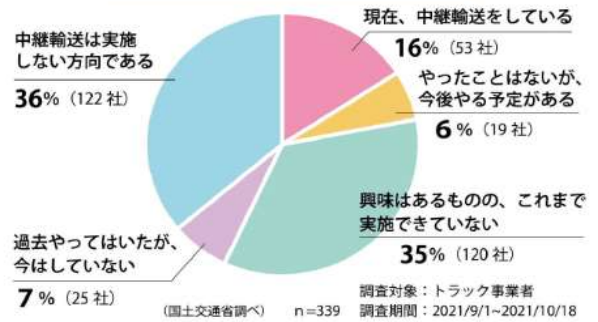
マレーシア・パームオイルボード (MPOB) が発表した今年1月分の同国パーム油需給は、原油生産量が前月比13.5%減 (前年同月比11.3%増)、輸出量が同18.7%減 (同122.2%増)、在庫が同3.9%減 (同17.2%増)。マレーシアのパーム油相場は、2月後半から3月にかけて急騰。コロナ禍が長引く中、生産量が伸び悩んでいるところに、インドネシアの輸出規制が相場高騰に拍車をかける格好。さらに、ロシアのウクライナ侵攻で、黒海からのヒマワリ油供給が滞ったことで、パーム油への需要が高まるのとの見方も相場を後押ししている。先物相場は3月2日に一時、中心限月で7000リングイ超えと過去最高値を記録した。FOB価格はRBDパーム油で5月積み1700ドル超えまで高騰している。

マレーシア・パーム油需給統計

	22年1月速報	21年12月速報	前月比	21年1月確報	前年同月比
原油生産	1,253,442	1,449,719	-13.5	1,126,457	11.3
輸出	1,157,976	1,423,821	-18.7	947,392	22.2
在庫	1,552,414	1,614,594	-3.9	1,324,639	17.2

トラックドライバーの働き方改革

中継輸送の実施状況（択一式）



トラックドライバーの働き方改革

「中継輸送」で実現へ

国交省、普及のポイントや取り組み事例紹介

国土交通省はこのほど、中継輸送のさらなる普及促進のため、中継輸送実現のポイントや新たな取り組み事例をまとめた。

自動車の運転業務は、2024年4月1日から年960

24年4月から時間外労働上限規制

長距離運行を数人で分担

時間の時間外労働の上限規制が適用される。上限規制を順守しながら現在と同水準の物流を確保するためには、長時間労働の改善などの働き方改革に向けた取り組みを速やかに実施する必要がある。中継輸送は、長距離運行を複数の

ドライバーで分担し日帰り勤務が可能となる輸送形態で、労働負担の軽減や担い手の拡大につながる」と期待されている。

国交省がトラック事業者を対象に行った調査の結果、中

の中継輸送をコーディネートしている事業者へのヒアリングを基に実現のためのポイントをまとめた。

ポイントは4つで、①「ホワイト物流」宣言した事業者同士のコミュニケーションの

継続輸送に興味はある」との回答を含め、全体の半数以上(57%)の事業者が中継輸送の実施に前向きな意向を示した。

一方で、「中継輸送を実施している事業者」は約16%と、道半ばといった状況であるため、荷主や運送事業者、民間

場である「集いの場」の活用、中継輸送プラットフォームの活用、事業協同組合の活用といった中継輸送パートナー企業の発掘②中継輸送の実施により削減された労働時間分の賃金が下がることがないよう、ドライバーに対する雇用集（改訂）を公表した。

③中継拠点はドライバーが日帰り運行可能な発地・着地との距離が50キロ以内が望ましいこと、中継輸送の方式により必要な設備（十分な仮置スペースやフォークリフトなどの確認）といった中継地点の確保④従来の幹線輸送に比べ中継輸送では高速料金、中継拠点利用料、新規保険料などのコスト増および中継によるリードタイム増が発生することに荷主の理解と協力が重要であること①などを挙げて